

特集 「サブカルチャー」としての歴史

漫画がアニメ化され、アニメが小説化されるといった現象。日常化した漫画、アニメなどのメディアミックス。

これらの現象は、ある意味で子どもたちからの「読書離れ」を惹起しているやもしれない。

そのことを否定的にとらえるのではなく、

趣味や嗜好の多様化や価値観の多様化であり、文化の広がりとしてとらえることが重要だろう。

その世界から見える文化状況を思考し、

追究していくことが児童文学を活性化させることにも、繋がっていくのでは。

作家は、時代とどう向き合っているのだろうか。

作品の魅力はどこにあるのだろうか。

「サブカルチャーとしての歴史」を深めることは、児童文学と子どもたちとを繋ぐ懸け橋になるのでは。

